かかると怖い… 大人の風疹

“インフルエンザの５倍感染しやすい”と言われる**『風疹』**。
今回はこの「風疹」に関するお話をお届けいたします。

風疹って一体どんな病気？

風疹に感染すると、**発熱**、**全身に広がる赤い発疹**、**目の充血**、**咳**、**耳の後ろのリンパ節の腫れ**などが起きてしまいます。

日本では別名**「三日はしか」**とも呼ばれています。

流行する季節	春から初夏が多い
感染経路	飛沫感染（感染者のくしゃみ・咳から） 直接感染（手についた風しんウイルスから）
感染力	インフルエンザの５倍
潜伏期間	ウイルスに感染してから２～３週間
潜伏期間	◆発熱　◆顔から全身に広がる赤い発しん ◆首の後ろ側のリンパ節の腫れ （頸部リンパ節腫脹）

妊婦さんがかかるとおなかの赤ちゃんに影響が…

風疹にかかったことのない女性が、妊娠初期～２０週目くらいまでにかかってしまうと、おなかの赤ちゃんに障害が生じる確率が高くなります。　赤ちゃんに生じる障害は、**「難聴（耳が聞こえなくなる）」**、**「心臓病（心臓に奇形が生じる）」**、**「白内障（目が見えにくくなる）」**、その他にも**「早産」**などの危険もあります。　ですから、念のため妊娠２４週目くらいまでは人ごみを避け、子どもがたくさんいる場所に長居するのも避けましょう。

風疹を防ぐには「ワクチン接種」を！

これまで風疹ワクチンを接種したことがなく、風疹にかかったことのない方は注意が必要です。

大人の風疹は、発熱や発疹の期間が長引いたり、関節痛がひどくなったり、脳炎などの合併症を引き起こす危険性もあります。

もし、以下に該当する方は早めに『風疹ワクチン』を接種するようにしましょう。

- **●風疹にかかったことのない方**
- **●風疹ワクチンを受けていない方**
- **●過去にワクチン接種を受けたかどうかわからない方**

※昭和５４年４月２日～平成７年４月１日生まれの男女は接種率が低く、昭和５４年４月１日以前生まれの男性は子供の頃に定期接種の機会がありませんでした。
※妊娠出産年齢の女性がワクチンを接種する場合は、妊娠していない時期に接種を行い、その後２ヶ月間の避妊が必要です。

もし、風疹にかかってしまったら

風疹にかかってしまった場合は、ウイルスを周りに広げないよう、以下のことを徹底しましょう。

1. まずは、電話でかかりつけ医に風しんの可能性を伝え、医師からアドバイスを受けましょう。
2. 医師に診てもらった後は、**「出歩かない」「職場に出社しない（させない）」**ことを徹底しましょう。

「風疹ワクチン」の接種に関するお問い合わせは、まずはお近くの小児科医に相談することをお勧めします。　最寄りの保健所や地域の医師会に問い合わせるのもよいでしょう。